

1 自己評価及び外部評価結果

あすなる川樋

事業所番号	0691900062		
法人名	特定非営利活動法人 あすなるの会		
事業所名	グランデージあすなる川樋		
所在地	山形県南陽市新田 577番地		
自己評価作成日	平成 25年 11月 11日	開設年月日	平成 24年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境を生かし、天気の良い日はよく日光浴をしたり、草花を摘んで施設内に飾ったりと四季を感じていただいたり、気分転換をはかっている。さらに月2〜3回のペースでミュージックケアを行い介護予防や情緒の安定コミュニケーションをとれるようにしている。また食事前には嚥下体操を行い、誤嚥の予防に努めている。これらのリハビリメニューに力を入れているが、その人に合わせた個別対応・リハビリを行い信頼関係を築くこと、1人ひとりの利用者を尊重することを大事に日々生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して1年余りであるが、地域との関係を深める努力がなされ、事業所の夏祭りへの招待、ボランティアによる歌謡サークル、語り部の来所、地区の祭りへの招待と、特別席の用意等、短期間で地域との関係性を構築しつつある。又、職員に対する教育も、法人として熱心に取り組まれており、全員参加での取り組みが行われ、更にミュージックケア、嚥下体操の導入によりケアの質の向上を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 25年 12月16日	評価結果決定日	平成 26年 3月 19日

[gat](#)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年法人理念のみだったが、事業所の理念を川樋職員で作成し、それを基に取り組んでいる。	職員の話し合いで「想いに寄り添う介護・自分らしく・・・、可能性を見つける介護」といった理念を作成し日々のケアを振り返るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等に地域の方々に参加して頂けるよう回覧を回すなどしている。また地域の方々からも地元のお祭りへの招待を頂き参加している。地元のボランティアの方々を招くなど交流をおこなっている。地区の防災訓練への参加もしている。	町内会には参加している。今年度の事業所の夏祭りは水害の為区長や民生委員は参加できなかったが、地元のお祭りには招待され、特別席まで用意された。ボランティアによる歌謡サークル、語り部等が行われ、又地区の防災訓練		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、活発な意見交換があるが、その他は出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方や民生委員、家族代表の方などから様々なご意見、質問等を頂き、そこから見えてきた改善点などをもとにサービスの向上に繋がるようにつとめている。	南陽市、区長、民生委員、近隣の特養、家族代表等の参加で2ヶ月に1回開催して、事業所の報告、課題について、意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進委員メンバーとして南陽市福祉課の職員方にも毎回参加して頂き現状を報告しアドバイスを頂いたり、その他の時でも随時、電話やメール等で連絡を密にし日頃から相談、協力していただけるよう取り組んでいる。	運営推進会議に参加して頂いている。事業所の状況を知って頂いているので、相談、アドバイスを頂く関係を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけたない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	基本的に日中は職員が利用者に寄り添い、見守りをする事で、玄関の鍵をかけたたり拘束したり等の行為なく安心して過ごして頂けるようにつとめている。夜間は一部転落の危険がある方のみ、家族、本人に十分に説明し同意を得てベッド柵を使用している。	法人として今年度の研修は「ホスピタリティ」研修が実施され、全員参加の予定となっており、この中で身体拘束に関する教育がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	家族の様子、本人の様子を観察しながら、変化があった際は、情報を共有し対応できるように努めている。現時点で学習会は開催していないが、ミーティング等で職員に話題提供するなどし、虐待への意識を持つように促している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では、成年後見人制度等について学ぶ機会は未だ設けておらず、今後の検討課題となっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの説明から始まり、利用者、家族が不安に思っている事は丁寧な聞き取りの中で対応する様に努めている。また入院等でやむを得ず解約に至った場合も解約に至る過程で、本人、家族と十分に話し合い医師の意見などをふまえスムーズに次に移行できるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現時点では家族会等は出来ていない。早急に家族会を作り意見を頂き運営に反映させたい。	家族の来所時に意見を聞いている。法人としてアンケートの実施が行われているが、今年度については未実施となっている。継続した取り組みが望まれる。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低でも毎月1回ずつはミーティングとカンファレンスを行い、意見交換をしている。職員より提案のあった時は、よく聞き対応している。また場合によっては、個別に面談をするなどの機会を設け職員の意見を聞けるよう取り組みを行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の会議や日々の業務の中でしっかりと就業環境を整え、働きやすい環境作りに努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は法人の取り組みとして全5回のホスピタリティ研修を実施している他、グループホーム協議会主催の交換実習やその他さまざまな外部の研修に職員が参加できるよう配慮し職員個々が成長できるように努めている。	法人として、介護塾を開催、全員参加を基本として職員の質のレベルアップを目指している。今年度はホスピタリティに関する研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に入会し、研修、交換実習等に参加することで、他の事業者の方々と交流できるよう取り組んでいる。また外部の研修会への積極的な参加を呼び掛けている。	GH協議会に参加し、交換実習にも参加して他の事業所と交流して、スキルアップを図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調での調査をもとに、入所されてからはその都度ご利用者の話に耳を傾け、少しでも安心できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までスムーズに進められるよう実調の際詳しく話を聞くようにしている。入所後も家族との連絡を密にとる事で利用者、家族ともに不安なく生活できるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、本人、家族とよく話し合い、現在のニーズが把握できる様努めている。そのうえでグループホームで出来る事、出来ない事を話し合い理解していただき、入所された際は、利用者の思いに添えるケアにつながるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を尊重しつつ、日常で出来ること(掃除、食器拭き、洗濯物たたみ等)を見つけ、利用者の仕事や役割としていただき日々の生活の生きがいにつながるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題があれば家族にその都度連絡し、ご意見を聞き改善策を考えている。また、夏祭りや芋煮会等に参加して頂けるように声掛けし、本人と家族の絆が切れないよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により馴染みの美容院や店に行ったり、自宅周辺にドライブする等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんそれぞれに仲の良いお友達が出来ている。気の合う方同士が近い食席になるよう配慮し、落ち着いて楽しく生活できる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所に至った方でも、必要に応じ本人や家族との関わりを持ち、今後の対応等を相談された場合は、本人や家族の気持ちに添い、適切な対応、支援が行える様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、一人一人の話に耳を傾け、生活への希望を把握できるよう努めている。本人の意向が把握しにくいときには、スタッフ間で話し合い出来るだけ思いを酌めるよう努めている。	日々の生活の中で会話を通して利用者の思いを汲み取っている。カンファレンスで職員間での話し合いを通して、利用者の意向や思いを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや日々の会話やご家族との話などを通じ、利用者の生活環境や生活歴をお聞きし、出来る限りご本人の意向に添ったケアを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との日々の会話や行動、ケース記録、バイタルチェックや月1回のカンファレンス等で心身の状況をきちんと把握し職員間で現状を共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは居室等でさりげなくお聞きし、家族とは、面会時や電話にて、スタッフとはミーティングや随時意見を聞き、現状に合わせた介護計画を作成するように努めている。	具体的な介護計画で目標が作成されている。柔軟に現状にあう計画作りをこころがけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表に1日の様子を記入し、特変があれば業務日報に記入する事で情報の共有が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加したり、地元ボランティアの方々を招いたり、理容師の方に来ていただき散髪をして頂いたりといった社会資源との協働に努めている。また近隣の農家の方が作物や花を届けてくださったりと暮らしに暖かさが感じられるような支援をしていただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ほとんどの方が協力医の往診を受けている。担当者が受診報告書を通じ、日々の様子を報告し医師の指示を仰いでいる。	月1回協力医の往診で受診している。又専門医には職員が同行して、日々の様子を報告している。又家族にも報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	法人内の看護職員が定期的に訪問しており、受診するまでもない些細な事などもこまめに相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の看護師や主治医との連絡を密にして情報の共有を図っている。病院ごとパイプを作る事で信頼関係の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	今現在、事業所では対応できる内容を見学や実調の時に説明させていただき、十分理解して頂けるよう努めている。外部の看取り研修に参加している。 ※現在ターミナル対応はなし	法人としては現在「看取り」はしていない。外部の看取り研修に参加して今後のために検討する段階である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が救命救急の講習を受けているが、実践出来るよう更に社内講習を検討している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内において委員会を設置しているが、体制作りを努めている途中の状況にある。事業所としては、職員間の緊急の連絡網を作り緊急時備えている。今年度は地区の避難訓練へ参加し地区との連携を進めている。	7月に夜間想定で消防署立会いで防災訓練をおこない、次回は2月に予定されている。	防災マニュアル、避難時の手順書等現状のものをより整備し、職員に理解しやすいように改善して行く事が望まれる。又、運営推進会議を通じて地域の協力を求めていくことが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時等は他者に分からない様に小声で誘うなどプライバシーの尊重をしている。	研修でプライバシーについて行っているが、日常においては、その都度管理者が指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけが押し付けにならず自己決定が出来るよう問いかけの言葉にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々レクリエーションの準備はしているが、参加は自由とし一人一人の意志を大切にしているが、充分ではないと感じている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は複数から選択して頂くなど、押しきせにならぬ様に気を付け、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部より委託業者が入っているので、栄養、衛生面は大丈夫だが利用者が食事作りに参加できない為、おやつ作りを一緒に楽しんで頂いている。テレビを一台にしたことで会話が増えたように思う。	食事は業者に委託されている。おやつ(たこやき、パフェイ、干し柿、ホットケーキ)作りをして楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に好み、禁忌を把握し、食事箋を作成し委託業者に細かく伝えている。摂取量も記録し体調管理に生かしている。尿量測定必要な方には水分摂取量に特に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、補助を実施している。利用者様の能力に応じ、出来ることは極力ご本人でして頂くよう取り組んでいる。訪問歯科との連携を		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴えのない利用者には、さりげない声掛けし出来るだけトイレで排泄できる様に努めている。排泄チェック表を活用し排泄の管理を行っている。	排泄チェック表を活用してできる限り声掛けてトイレでの排泄を基本としている。日中はオムツ使用は1名、リハビリパンツ、布パンツで対応している。夜間はゆっくり寝たいという希望で4名ほどオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリ体操等、体を動かす事により、自力排便が出来るように努めているが、便秘症の方には主治医の指示の下、下剤を服用して頂くなど、本人の負担にならない支援ができるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の体調や気分を考慮し、拒否される時は無理強いしない様にしている。入浴中は会話をしながら楽しく入っていただくよう心掛けている。	入浴は週2回～3回が基本である。小規模多機能(通所)と一緒になので、午前中に入浴する事が多い。拒否のある人は無理じいせず、利用者の希望に従っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意志決定の下、休息したり、安心して眠れるような環境を作る支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の使い方は薬と一緒に保管し常時確認出来るようにしている。変更時には業務日報により職員に周知徹底している。誤薬、忘れ防止をするため、法人のGHで薬の管理を統一した。(日々の薬ケースの統一など)9		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に応じて家事や仕事を分担し、して頂いたことに対し職員が常に感謝を表すようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	完全な本人の希望には沿えていないが、職員の働きかけで遠方への外出をしてもらえるように支援している。家族へ帰宅や外出のお願いもしている。	事業所の行事として花見、ゆり園の見学等が実施された。帰宅願望の利用者はドライブで自宅の近くにいたりしている。日常の散歩、スーパーに買い物に行く、美容院は在宅の時から利用を続けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金の持ち込みはしない様をお願いしている。お金にこだわりのある方については施設で管理し必要時に使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により自由に家族や友人に電話して頂いている。本人の携帯電話の操作依頼があれば補助もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾ったり鉢植えを置くなどしている。またホール、廊下にイベント時の写真を掲示する等し、明るく楽しい空間になるよう努めている。	食堂や居間は小規模多機能と同じ場所となっている。テレビは昨年度は2台あったが、今年は1台になり、静けさと穏やかに戻ってきた。事業所は13号線沿いにあり、往来する車が常に見えて孤独感は感じられない環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席はお話しの合う人の隣、テレビの好きな方には観やすい席に座れるよう工夫している。その他午睡用に畳、ソファを用意して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には危険な物でない限り自由に持ち込みして頂いている。一人暮らしの方には仏壇等も持ち込みされ毎日拜んでいる姿も見られる。退去者があった時、南側の居室希望の方に居室を選んでいただいた。	家族、職員の工夫で、本人らしい部屋作りがなされ、安心して生活できるように支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができる事、出来ない事を把握し、自立支援を目指した支援が出来るように努めている。		

















